

# 新・内科専門医制度

## 研修手帳(案)

(研修ログ/2014年12月8日更新)

---

### 目次

『Web 研修手帳(研修ログ)』について・・・1	
総合内科Ⅰ(一般)・・・5	呼吸器・・・17
総合内科Ⅱ(高齢者)・・・6	血液・・・19
総合内科Ⅲ(腫瘍)・・・7	神経・・・20
消化器・・・8	アレルギー・・・22
循環器・・・10	膠原病及び類縁疾患
内分泌・・・12	・・・23
代謝・・・14	感染症・・・24
腎臓・・・15	救急・・・26

---

#### 症例に関する到達レベル

A: 主治医(主たる担当医)として自ら経験した。

B: 間接的に経験している(実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した)。

C: レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した。

## 新・内科専門医制度 『Web 研修手帳（研修ログ）』について

### 考え方とその運用方針

#### 1) 概 要

新・内科専門医制度（以下、内科専門医制度）において、この制度に参加する各施設（群）は、内科研修カリキュラムの内容を5年間で修得することを目指し、プログラム作成を行なう。

Web 研修手帳（研修ログ）は、専攻医がその研修内容（主に症例経験）を Web 上のマイページへ簡潔に登録し、指導医がそれを確認・評価するものである。この Web 上の研修手帳を用いて、専攻医、指導医、専門医制度委員会がそれぞれの立場で管理画面を確認することによって、プログラムの進捗状況を確認することができる。

つまり、研修内容とその評価が経時的に Web 上で確認できるようになることが期待されるものである。

なお、目標とする研修カリキュラムの内容の全てを5年間で高い次元で達成することは事実上、困難である。しかし、Web 研修手帳を活用することにより、特に必須とされる症例経験数と領域の受持バランスを可視化することができる。

内科研修の到達度を経時的に可視化する試みは初めてである。これを用いて内科専門医として、やや高い次元での到達度を受験資格として想定するものの、専攻医全体の研修状況を確認しながら、弾力的な運用を考慮することも併せて申し上げておく。

#### 2) Web 研修手帳の導入と対象者について

導入時期：2017年4月

2015年医師免許取得者が後期研修を開始する時期に開始

対象者：2015年3月以降に医師免許を取得した者

#### 3) 専攻医による登録の開始にあたって

- ・専攻医自身が内科を専攻することを意識した時点で、Web 研修手帳のシステムへ登録を開始する。
- ・このシステムは日本専門医機構からの委託を受け、実体的には日本内科学会が運営することが想定される。
- ・システム開発とその運営には相応の開発費と運営費がかかると予想されるが、登録を行なう専攻医にも負担感のなるべくないような形での登録料設定を行なう。このシステムは日本内科学会が実務上、主体的に開発

を進めることになるが、何らかの形で二次使用などを行なう学会や団体がある場合には、その費用負担を取り決めることもある。

- ・内科専攻医として登録する際には内科学会への入会は必須としないが、登録料は内科学会会員と非会員の場合は設定が異なることもある。
- ・専攻医がシステムに登録したときには専用のマイページができる。  
ここでは自身の属性などをまずは初期設定として入力する。  
氏名、所属、医籍登録番号、参加しているプログラム名、指導医など。

#### 4) 専攻医による登録内容

- ・初期設定後、研修医は自身が主治医（あるいは主たる担当医）として受け持った症例の簡易データを登録する。将来、病歴要約として提出の可能性のある症例を想定している。
- ・登録内容（案）  
病院名および診療科名、受持期間、患者 ID、受持時患者年齢、診断名
- ・ひとつの症例につき、この登録内容を記載し、その症例受け持ちの確認と評価を Web 上で指導医に行なってもらおう。
- ・登録数は研修期間 5 年間のうち、200 以上とする（200 でも可）。
- ・なお、専攻医として登録開始する前の症例経験については、遡及して登録することを認める。勿論、初期臨床研修時の内科受け持ち症例も登録を認める。

#### 5) 症例経験の領域について

- ・専攻医が研修し、登録する症例の領域は以下の領域に大別される。  
「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科Ⅲ（腫瘍）」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、「救急」  
これらの領域に履修順序はないが、それぞれの領域で示されている疾患群の症例を受け持つことが重要となってくる。
- ・疾患群とは何か  
研修カリキュラムに記載されている疾患項目は大項目、中項目、小項目としてとりまとめられて記載されている。Web 研修手帳では、これら研修カリキュラムの疾患項目の中項目や小項目をやや大きな固まりとして取りまとめ、疾患群として構成している。

##### 例) 消化器

食道・胃・十二指腸疾患の項目を取りまとめて、ひとつの疾患群としている。また、小腸・大腸疾患の各項目を取りまとめてひとつの疾患群としている。このように取りまとめられた疾患群が消化器の

場合、合計9つとなっている。

- ・疾患群の数はそれぞれの領域によって異なるが、各領域の研修を偏りなく経験することを期待して、次のように構成されている。

**【各領域の疾患群の数】**

「消化器」9, 「循環器」10, 「内分泌」4, 「代謝」5, 「腎臓」7,

「呼吸器」8, 「血液」3, 「神経」9, 「アレルギー」2,

「膠原病および類縁疾患」2, 「感染症」4, 「救急」4

疾患群の数の合計=67+3「総合内科Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ」

※「総合内科Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ」は特定の臓器別領域を指すものではない。

- ・内科専攻医には、これら67+3に大別された疾患群の症例を主治医（あるいは主担当医）として疾患群ごとに最低一つは経験することが求められる。

例) 循環器

急性冠症候群として区分されている疾患群のいずれかの疾患を最低一つ以上経験することが求められる。

6) 求められる症例経験（登録する症例）について

- ・67+3に大別された疾患群には、主治医としての経験が求められる到達レベルAグレードの症例が必ず含まれており、そのことから、内科専門医として67+3の疾患群、それぞれにおいて最低一つ以上の症例経験を求める（症例経験のバランスを考慮する）。
- ・中にはたまた主治医としての受け持ちが期待される到達レベルAグレードの症例経験がなく、同じ疾患群の希少疾患（Cグレード）を受け持つことがあると思われる。この場合は、その希少疾患を受け持ったことにより、その疾患群の症例経験を満たしたと見なす。
- ・複数の領域に重複する症例を経験した場合

例) 気管支喘息（呼吸器, アレルギー）

気管支喘息は呼吸器領域, アレルギー領域それぞれの症例として重複しているが、気管支喘息を経験した場合、専攻医の判断により、いずれか任意の領域に1例登録することを認める。

- ・疾患群の症例項目にない症例を経験した場合  
内科専門医として一定程度の希少疾患も疾患項目としてあげているが、いずれにも該当しない希少疾患を経験した時には、各疾患群に「その他の疾患」という項目を設け、そこで登録を行なう。

7) 指導医による評価

- ・専攻医が登録した症例経験について、指導医がその内容を確認する。

- ・指導医とは専攻医の研修にあたっている直接の担当指導医を想定している。しかし研修プログラムや施設の規模によっては、指導医を統括するプログラム責任者が担当指導医を兼務することも想定される。
- ・指導医は、専攻医が登録したその症例を Web 研修手帳（指導医画面）から内容を確認し、将来、病歴要約の提出候補症例として作成できる十分な研修を積んでいると判断できる場合、これを評価欄に OK としてチェックする（評価は指導医への負担軽減を考慮し、あくまで簡易的なものとする）。

#### 8) 内科専門医の受験資格（病歴要約提出への流れ）

- ・ Web 研修手帳を用いて、内科研修の経時的評価（プロセス評価）を行なうが、専攻医が次の全ての基準を満たしたときに、病歴要約の提出（オンライン提出）を認め、提出された病歴要約の査読（オンライン査読）を内科専門医制度委員会が直接行なう。

##### 【病歴要約提出に関する基準】

- 1) 後期研修から満 2 年の内科研修期間が経過している。
  - 2) 初期研修時の症例も含め、200 症例以上を主治医（主たる担当医）として受け持っており、Web 研修手帳への登録が完了している。
    - ※ 200 症例の 8 割（160 症例以上）の登録がある場合、筆記試験までに 200 症例の登録完了を求めるが、ひとまず基準達成と見なす。
  - 3) 症例は内科各領域を偏りなく受け持つことが期待されるため、原則、67+3 疾患群の全てにおいて、最低 1 症例は登録していること。
    - ※ Web 研修手帳を稼働してからの検証が必要であるが、場合によっては 7 割～8 割の疾患群受け持ちをもって、ひとまず病歴要約の提出を認め、筆記試験までに足りない症例経験を求める。
    - ※ 但し 67 に大別されている臓器別の疾患群の全てを経験することは難しい事情もあるかもしれず、「総合内科 I, II, III」の 3 つのカテゴリが経験されている場合は、救済的な運用を行なう。
  - 4) 作成する病歴要約は全て、Web 研修手帳に登録と評価が完了している症例から提出するものとする。
    - すでに指導医の評価も終わっているため、退院時サマリのコピー提出なども割愛できる。
- ・なお、内科専攻医としての登録→経験症例の登録→指導医の評価→基準達成に伴う病歴要約の提出→病歴要約査読は全て一貫した Web システムをもって行なう想定である。

	総合内科 I (一般)	到達レベル
1	1) 輸血と移植	A
	2) 介護と在宅医療(主治医意見書の記載や在宅医療機関との連携を念頭に)	A
	3) 死(死亡診断を念頭に)	A
	4) 緩和ケア(非がん疾患を含む)	A
	5) 終末期ケア	A
	6) 喫煙(禁煙指導を念頭に)	A

	<b>総合内科Ⅱ（高齢者）</b> (原則として65歳以上で、かつ加齢に伴う変化が強く関与した病態について)	到達レベル
<b>1</b>	1) 認知症を合併する慢性疾患	
	① 糖尿病	A
	② 高血圧	A
	③ その他	B
	2) 低栄養	
	① エネルギー・タンパク低栄養	A
	② 脱水、低ナトリウム血症、低カリウム血症	A
	③ 微量元素不足	B
	3) 嚥下性肺炎	A
	4) 転倒ハイリスク患者、骨折、骨粗鬆症	
	① 転倒ハイリスク	A
	② 転倒骨折後発部位の骨折(Colles骨折、上腕骨近位部、椎体、大腿骨頸部)	A
	③ 骨粗鬆症	A
	5) 廃用性症候群	A
	6) 在宅患者	A
	7) 高齢者終末期医療	A
	8) 自宅通院ができず、退院調整を必要とした患者	A
9) POLYPHARMACY	A	

	総合内科Ⅲ(腫瘍)	到達レベル
1	1) がん薬物療法の副作用と支持療法	A
	2) 緩和医療	A
	3) 腫瘍随伴症候群	B
	4) オンコロジーエマージェンシー	B
	5) 骨転移の薬物療法	B

		消化器	到達レベル
1	食道・胃・十二指腸疾患	1) 腫瘍性疾患	
		① 食道癌	B
		② 胃良性腫瘍, 粘膜下腫瘍, GIST<gastrointestinal stromal tumor>	B
		③ 胃癌	A
④ 胃悪性リンパ腫, MALTリンパ腫		B	
2		2) 非腫瘍性疾患	
		① 食道炎, 食道潰瘍, 胃食道逆流症<GERD>, 非びらん性胃食道逆流症<NERD>	A
		② 食道運動異常症(食道アカラシア)	B
		③ 機能性ディスペプシア<FD>	B
		④ 食道・胃静脈瘤	B
		⑤ Mallory-Weiss症候群	B
		⑥ 急性胃炎・急性胃粘膜病変	A
	⑦ 慢性胃炎, <i>Helicobacter pylori</i> 感染による胃・十二指腸病変	A	
⑧ 胃・十二指腸潰瘍<消化性潰瘍>	A		
⑨ その他(胃アニサキス症, 胃巨大皺襞症)	B		
3	小腸・大腸疾患	1) 腫瘍性疾患	
		① 小腸腫瘍(ポリープ, リンパ腫, GIST, 癌など)	B
		② 大腸ポリープ(過形成性ポリープ, 腺腫)	A
③ 結腸癌, 直腸癌, 肛門癌		A	
4		2) 炎症性疾患	
		① 感染性腸炎(腸管感染症, 細菌性食中毒を含む)	A
		② 虫垂炎	B
		③ 腸結核	B
		④ 潰瘍性大腸炎	B
⑤ Crohn病		B	
5		3) その他の疾患	
		① 胃切除後症候群(ダンピング症候群, 輸入脚症候群, 胃切除後栄養障害)	B
	② 虚血性腸炎	B	
	③ 偽膜性腸炎	B	
	④ 過敏性腸症候群	B	
	⑤ 肛門疾患(痔核, 痔瘻, 裂肛)	B	
	全消化管に関わる疾患	1) 消化管アレルギー	B
		2) 好酸球性胃腸炎	B
		3) 薬物性消化管障害 (NSAIDs, 抗菌薬など)	A
		4) 蛋白漏出性胃腸症, 吸収不良症候群, 放射線腸炎	B
5) 消化管ポリポーシス		B	
6) 消化管神経内分泌腫瘍<gNET>		B	
7) 憩室性疾患(憩室炎, 憩室出血)		B	
8) 血管拡張症<angiectasia>		B	
9) 消化管アミロイドーシス		C	
10) その他の疾患 腸管(型)Behçet, 膠原病に伴う消化管病変(強皮症など) IgA血管炎<Schönlein-Henoch紫斑病、アナフィラクトイド紫斑病>に伴う消化器病変		B	

		消化器	到達レベル
6	肝疾患	1) 炎症性疾患	
		① 急性肝炎(A型, B型, C型, E型, EBウイルス, サイトメガロウイルス)	B
		② 慢性肝炎	B
		③ 自己免疫性肝炎<AIH>	B
		④ 肝硬変	A
⑤ 原発性胆汁性肝硬変<PBC>		B	
7		2) 代謝関連疾患	
		① アルコール性肝障害	A
		② 非アルコール性脂肪性肝障害 <NAFLD>, 非アルコール性脂肪肝炎<NASH>	A
		③ 薬物性肝障害	B
8		④ 肝内胆汁うっ滞	B
		3) 腫瘍性および局所性(占拠性)疾患	
		① 肝細胞癌	B
		② 転移性肝癌	B
		③ 肝嚢胞	A
	④ 肝海綿状血管腫	B	
	胆道疾患	1) 胆嚢・胆道結石症	B
		2) 胆嚢炎・胆管炎(硬化性胆管炎を含む)	B
3) 胆嚢ポリープ, 胆嚢腺筋腫症		B	
4) 胆道, 胆嚢悪性腫瘍(乳頭部腫瘍も含む)		B	
9	膵臓疾患	1) 急性膵炎	B
		2) 慢性膵炎・膵石症	B
		3) 自己免疫性膵炎	C
		4) 嚢胞性膵疾患	B
		5) 膵癌	B
		6) 膵神経内分泌腫瘍<pNET>	C
	腹腔・腹壁疾患	1) 鼠径ヘルニア, 大腿ヘルニア, 閉鎖孔ヘルニア	B
		2) 癌性腹膜炎	B
	急性腹症	1) 腸閉塞<イレウス>	A
		2) 消化管穿孔	B
		3) 急性(汎発性)腹膜炎	B
		4) 腹膜腫瘍	B
5) 血管疾患		B	

		循環器	到達レベル
1	虚血性心疾患	1) 急性冠症候群	
		① 不安定狭心症	A
		② 急性心筋梗塞	A
2	虚血性心疾患	2) 安定型狭心症	
		① 労作性狭心症	A
		② 安静時狭心症, 異型狭心症	A
		3) 陳旧性心筋梗塞, 無症候性心筋虚血	A
3	血圧異常	1) 本態性高血圧症	A
		2) 腎性高血圧症(腎血管性高血圧症を含む)	B
		3) その他の二次性高血圧症	
		① 原発性アルドステロン症→内分泌の項も参照	B
		② 褐色細胞腫→内分泌の項も参照	C
		③ Cushing症候群 →内分泌の項も参照	B
		④ 大動脈縮窄症	C
4) 低血圧, 起立性調節障害	B		
4	不整脈	1) 期外収縮	A
		2) 頻脈性不整脈	
		① 上室頻拍, WPW症候群	A
		② 心房粗・細動	A
		③ 心室頻拍, 心室細動	A
5	不整脈	3) 徐脈性不整脈	
		① 洞不全症候群,	A
		② 房室ブロック	A
		4) QT延長症候群	B
		5) 心臓突然死, Brugada 症候群	C
失神	1) 神経調節性失神	B	
	2) 心原性失神	B	
6	感染性心内膜炎		B
	弁膜疾患	1) 僧帽弁疾患	
		① 僧帽弁狭窄症	B
		② 僧帽弁閉鎖不全症	A
		2) 大動脈疾患	
		① 大動脈弁狭窄症	A
		② 大動脈弁閉鎖不全症	A
3) 三尖弁疾患			
① 三尖弁閉鎖不全症	B		
7	先天性疾患	1) 心房中隔欠損症	B
		2) 心室中隔欠損症	B
		3) 動脈管開存症	C
		4) Eisenmenger症候群	B
	異常肺循環	1) 肺高血圧症	B
		2) 肺性心	B
		3) 肺血栓塞栓症	A
心臓腫瘍		C	

	循環器		到達レベル
8	心膜疾患	1) 急性心膜炎	B
		2) 収縮性心膜炎	B
		3) 心タンポナーデ	B
	心筋疾患	1) 急性心筋炎	B
		2) 肥大型心筋症, 拡張型心筋症	A
		3) 二次性心筋症	
		① 心アミロイドーシス	B
		② 心サルコイドーシス	B
③ その他の二次性心筋症(心Fabry病など)		C	
4) たこつぼ型心筋症	B		
9	大動脈疾患	1) 大動脈解離, 大動脈瘤	A
		2) Marfan 症候群	C
		3) 高安動脈炎<大動脈炎症候群>	B
	末梢動脈疾患	1) 閉塞性動脈硬化症	A
		2) Buerger病	C
3) 急性動脈閉塞		C	
静脈疾患(血栓性静脈炎, 深部静脈血栓症)		B	
10	心不全	1) 心原性ショック	A
		2) 急性心不全	A
		3) 慢性心不全	A

		内分泌	到達レベル
1	視床下部・下垂体疾患	1) 下垂体前葉機能亢進症	
		① 先端巨大症<アクロメガリー>	B
		② Cushing病	B
		③ 高プロラクチン血症(プロラクチノーマを含む)	B
		④ TSH産生腫瘍	C
		2) 下垂体前葉機能低下症	
		① 下垂体機能低下症(Sheehan症候群を含む)	B
		② 成人成長ホルモン分泌不全症	C
		③ ACTH単独欠損症	C
		④ 低ゴナドトロピン性性腺機能不全(Kallmann症候群を含む)	C
		3) 下垂体後葉疾患	
		① 尿崩症(心因性多尿症, 腎性尿崩症を含む)	B
		② SIADH	A
		4) 視床下部疾患	
① 視床下部腫瘍(頭蓋咽頭腫、胚細胞腫瘍、胚腫を含む)	C		
② 中枢性摂食異常症(神経性食思不振症を含む)	C		
5) その他の視床下部・下垂体疾患			
① empty sella症候群, リンパ球性下垂体炎, 肉芽腫性疾患	C		
2	甲状腺疾患	1) 甲状腺中毒症	
		① Basedow <Graves> 病	A
		② Plummer 病	C
		③ 亜急性甲状腺炎	C
		④ 無痛性甲状腺炎	B
		2) 甲状腺機能低下症	
		① 慢性甲状腺炎<橋本病>	A
		② 術後または放射線ヨード療法後の甲状腺機能低下症	C
		3) 甲状腺腫瘍	
		① 悪性腫瘍	B
② 良性腫瘍	A		
3	副甲状腺疾患とカルシウム代謝異常	1) 高カルシウム血症	
		① 原発性副甲状腺機能亢進症	B
		② 悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症	A
		③ その他の高カルシウム血症(薬剤性含む)	C
		2) 低カルシウム血症	
		① 副甲状腺機能低下症(偽性副甲状腺機能低下症を含む)	C
		② ビタミンD作用不全症	C
		3) 低リン血症(腫瘍性骨軟化症など)	C
		4) 骨粗鬆症	
		① 原発性骨粗鬆症	B
② 続発性骨粗鬆症	B		

		内分泌	到達レベル
4	副腎疾患	1) 副腎皮質機能亢進症	
		① Cushing 症候群	B
		② 原発性アルドステロン症, 偽性アルドステロン症	B
		③ Bartter症候群およびGitelman 症候群, 先天性副腎過形成	C
		2) 副腎皮質機能低下症	
		① Addison 病	C
		3) 副腎腫瘍	
		① 非機能性副腎皮質腫瘍(incidentalomaを含む)	A
		② 褐色細胞腫	C
	多発性内分泌腺異常	1) 多発性内分泌腺腫瘍症<MEN> (I型, II型)	C
		2) 自己免疫性多発性内分泌腺症候群(APS I型, II型, III型)	C
	性腺疾患	1) Turner 症候群	C
		2) Klinefelter 症候群	C
		3) 多嚢胞性卵巣症候群<PCOS>	B
4) 性分化疾患		C	
神経内分泌腫瘍	1) ガストリノーマ、インスリノーマ	C	

	代謝	到達レベル	
1	1型糖尿病	A	
2	2型糖尿病	A	
3	他の疾患、条件に伴う糖尿病(二次性糖尿病)	B	
	遺伝子異常による糖尿病	C	
	糖尿病合併妊娠	B	
	妊娠糖尿病	B	
	低血糖	1) インスリン拮抗ホルモン分泌不全による低血糖(副腎不全など)	C
		2) インスリノーマ	C
		3) 反応性低血糖	B
		4) 薬物による低血糖(糖尿病治療薬によるもの)	A
		5) 薬物による低血糖(糖尿病治療薬によるものを除く)	C
	糖尿病の緊急症	1) 高血糖緊急症	
① 糖尿病ケトアシドーシス		B	
② 高浸透圧高血糖症候群		B	
③ 乳酸アシドーシス		C	
	2) 低血糖昏睡	B	
4	糖尿病の慢性合併症	1) 細小血管障害	
		① 糖尿病網膜症	A
		② 糖尿病腎症	A
		③ 糖尿病神経障害	A
		2) 大血管障害	
		① 心血管障害	A
		② 脳血管障害	A
		③ 末梢血管病変<PAD>	B
		3) 糖尿病に合併しやすい疾患・状態	
		① 糖尿病とがん	B
		② 糖尿病と骨粗鬆症	C
		③ 糖尿病と認知症	C
		④ 糖尿病とうつ	C
⑤ 糖尿病と歯周病	C		
5	肥満症	1) 単純肥満(内臓脂肪肥満, 皮下脂肪肥満)	A
		2) 二次性肥満	B
		3) メタボリックシンドローム	A
	脂質異常症	1) 原発性脂質異常症	A
		2) 続発性脂質異常症	A
	高尿酸血症	1) 痛風	A
		2) 無症候性高尿酸血症	A
	ビタミン異常症	1) ビタミン欠乏症(ビタミンB <sub>1</sub> 欠乏, ナイアシン欠乏)	C
2) ビタミン過剰症		C	
	微量元素の欠乏症, 過剰症(亜鉛欠乏症, 過剰症)	C	

		腎臓	到達レベル
1	CKD	1) 慢性腎臓病 <CKD>→慢性腎不全 (末期腎不全<ESKD>を含む)	A
2	急性腎障害	1) 急性腎障害 (腎前性、腎性、腎後性)<AKI>→急性腎不全	A
3	糸球体疾患	1) 一次性	
		① ネフローゼ症候群 (微小変化群, 巣状分節性糸球体硬化症, 膜性腎症, 膜性増殖性糸球体腎炎, 先天性ネフローゼ症候群フィンランド型など)→CKDも参照	A
		② 慢性糸球体腎炎 (IgA腎症など)→CKDも参照	A
		③ 急性糸球体腎炎→AKIも参照	B
		④ 急速進行性糸球体腎炎 (ANCA関連、抗GBM抗体関連、免疫複合体関連)→AKIも参照	B
		2) 二次性	
		① 糖尿病腎症→CKDも参照	A
		② ループス腎炎	B
		③ IgA血管炎<Schönlein-Henoch 紫斑病, アナフィラクトイド紫斑病>	B
		④ HCV腎症, HBV腎症	B
		⑤ 敗血症、感染性心内膜炎	B
		⑥ 抗GBM抗体病<Goodpasture症候群>→AKIも参照	C
		⑦ 抗好中球細胞質抗体関連血管炎 [顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症<Wegener肉芽腫症>、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症<Churg-Strauss症候群>]	C
		⑧ クリオグロブリン血症	C
⑨ アミロイド腎症→CKDも参照	C		
⑩ 単クローン性免疫グロブリン沈着症	C		
3) 遺伝性			
① Alport症候群→CKDも参照, 菲薄基底膜病, Fabry病→CKDも参照	C		
4	尿細管・間質疾患	1) 急性尿細管壊死, 腎皮質壊死→AKIも参照	A
		2) 薬物性腎障害→AKIも参照	A
		3) 間質性腎炎→CKD, AKIも参照	
		① 特発性間質性腎炎 (急性・慢性)	B
		② 二次性間質性腎炎 (痛風腎、Sjögren症候群、IgG4関連疾患など)	B
		4) 遺伝性	
		① 腎性糖尿, Bartter症候群 / Gitelman症候群, Liddle症候群, Fanconi症候群, Dent病 (特発性尿細管性蛋白尿症)	C
		5) 逆流性腎症 (膀胱尿管逆流現象)→慢性腎盂腎炎も参照	C
6) 骨髄腫腎→AKIも参照	C		
5	血管系疾患	1) 腎性高血圧, 腎血管性高血圧	A
		2) 腎硬化症 (良性, 悪性, 動脈硬化性)→CKD, AKIも参照	A
		3) コレステロール塞栓症→AKIも参照	B
		4) 血栓性細小血管症 [溶血性尿毒症症候群<HUS>, 血栓性血小板減少性紫斑病<TTP>]→AKIも参照	B
		5) 血栓性腎血管病 (腎梗塞, 腎静脈血栓症)	C
		6) 結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎→AKIも参照	B

		腎臓	到達レベル
6	水・電解質代謝異常	1) 脱水症, 溢水症, 体液量減少、Na代謝の異常	A
		2) K代謝の異常	A
		3) Ca, P, Mgの異常	A
		4) 酸塩基平衡異常(代謝性)	
		① 尿毒症性アシドーシス, 乳酸アシドーシス, 尿細管性アシドーシス(Fanconi症候群を含む)	A
	② 糖尿病ケトアシドーシス	B	
7	感染性腎尿路症	1) 急性腎盂腎炎→AKIも参照	A
		2) 慢性腎盂腎炎→CKDも参照	B
		3) 下部尿路感染症(性行為感染症, 出血性膀胱炎を含む)	A
	泌尿器科的腎・尿路疾患	1) 腎・尿路結石, 腎石灰化症→AKIも参照	A
		2) 前立腺肥大症, 前立腺癌	C
		3) 嚢胞性腎疾患(多発性嚢胞腎)→CKDも参照	A
		4) 腎・尿路腫瘍(腎腫瘍、腎盂・尿路腫瘍、膀胱腫瘍)	C

		呼吸器	到達レベル
1	気道・肺疾患	1) 感染性呼吸器疾患	
		① 急性上気道感染症/感冒(かぜ症候群)	A
		② 急性気管支炎	A
		③ 急性細気管支炎	C
		④ 慢性下気道感染症	A
		⑤ 細菌性肺炎(市中肺炎, 院内肺炎)	A
		⑥ 肺化膿症	A
		⑦ 嚥下性肺炎	A
		⑧ ウイルス肺炎	C
		⑨ マイコプラズマ肺炎	A
		⑩ クラミジア肺炎(クラミドフィラ肺炎)	B
		⑪ 肺真菌症	B
		⑫ 肺結核症、非結核性抗酸菌症	A
		⑬ ニューモシスチス肺炎、日和見感染症	A
		⑭ 胸膜炎(細菌性, 結核性)	A
		⑮ 膿胸	B
		⑯ 縦隔炎	C
		⑰ 肺寄生虫症	C
⑱ インフルエンザ	A		
2		2) 気管・気管支・肺の形態・機能異常, 外傷	
		① 気管支拡張症	A
		② 閉塞性細気管支炎	C
		③ びまん性汎細気管支炎<DPB>	C
		④ COPD<慢性閉塞性肺疾患>	A
		⑤ 気腫性嚢胞(ブラ, プレブ)、気管支嚢胞	A
		⑥ 肺リンパ脈管筋腫症<LAM>	C
		⑦ 原発性線毛機能不全症<Kartagener症候群>	C
		⑧ 無気肺	A
3	気道・肺疾患	3) 免疫学的機序が関与する肺疾患	
		① 気管支喘息	A
		② アレルギー性気管支肺真菌症(アレルギー性気管支肺アスペルギルス症を含む)	C
		③ 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(Churg-Strauss症候群)	C
		④ 過敏性肺炎	B
		⑤ 好酸球性肺炎(急性および慢性)	B
		⑥ サルコイドーシス	A
		⑦ 膠原病による間質性肺炎	B
		⑧ 多発血管炎性肉芽腫症<Wegener肉芽腫症>	C
		⑨ 抗GBM抗体病<Goodpasture症候群>, 肺胞出血	C
		4) 特発性間質性肺炎<IIPs>	
		① 特発性肺線維症<IPF/UIP>,非特異性間質性肺炎<NSIP>,特発性器質化肺炎<COP>,剥離性間質性肺炎<DIP>,リンパ球性間質性肺炎<LIP>,呼吸細気管支炎関連性間質性肺炎<RB-ILD>,急性間質性肺炎<AIP/DAD>	B
		5) 薬物、化学物質、放射線による肺障害	
		① 薬物誘起性肺疾患,化学薬品、重金属などによる肺障害,酸素中毒,大気汚染,パラコート中毒,放射線肺炎	B
		6) じん肺症	
① 珪肺症, 石綿肺, 有機じん肺, その他のじん肺	B		

		呼吸器	到達レベル	
4	気道・肺疾患	7) 肺循環異常		
		① 肺うっ血, 肺水腫	A	
		② 急性肺障害<ALI>、急性呼吸促迫症候群 <ARDS>	A	
		③ 肺血栓塞栓症・肺梗塞	A	
		④ 肺高血圧症(原発性, 二次性), 肺性心	B	
		⑤ 肺動静脈瘻, 肺分画症	C	
5	気道・肺疾患	8) 呼吸器新生物(気管・気管支・肺)		
		① 原発性肺癌(小細胞癌、腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌)	A	
		② カルチノイド	C	
		③ 腺様嚢胞癌	B	
6	形態・縦隔・機能異常・外傷	1) 胸膜疾患		
		① 気胸	A	
		② 血胸	B	
		③ 胸膜炎	A	
		④ 膿胸, 乳び胸	B	
			⑤ 胸膜肥厚斑, 胸膜斑, 胸膜中皮腫	B
	胸郭の形態・縦隔・機能異常・外傷	2) 縦隔疾患		
		① 縦隔気腫, 皮下気腫	B	
		② 上大静脈症候群	C	
		③ 反回神経麻痺	C	
		④ 縦隔腫瘍(胸腺腫, 胚細胞性腫瘍, 神経原性腫瘍, 嚢胞性腫瘍, 悪性リンパ腫)	B	
		3) 横隔膜疾患		
		① 横隔神経麻痺	B	
		② 横隔膜ヘルニア	C	
4) 胸郭、胸壁の疾患(外傷を含む)				
① 胸郭変形(漏斗胸)	B			
		② 肋間神経痛	B	
7	呼吸不全・呼吸調節障害	1) 呼吸不全		
		① 急性呼吸不全	A	
		② 慢性呼吸不全、急性増悪、肺性脳症<CO2ナルコーシス>	A	
8	呼吸不全・呼吸調節障害	2) 呼吸調節障害		
		① 閉塞型睡眠時無呼吸症候群	A	
		② 中枢型睡眠時無呼吸症候群	C	
		③ 肺泡低換気症候群、神経筋疾患に伴う呼吸不全	A	
		④ 過換気症候群	A	

		血液	到達レベル
1	赤血球系疾患	1) 出血性貧血	A
		2) 鉄欠乏性貧血	A
		3) 巨赤芽球性貧血(ビタミンB12欠乏性貧血, 葉酸欠乏性貧血)	B
		4) 溶血性貧血(自己免疫性溶血性貧血, 遺伝性球状赤血球症, 発作性夜間ヘモグロビン尿症, 薬物性もしくは感染症による溶血性貧血, 微小血管性溶血性貧血)	B
		5) 再生不良性貧血	B
		6) 赤芽球癆	C
		7) 全身性疾患に併発する貧血<二次性貧血>	A
2	白血球系疾患	1) 類白血病反応	C
		2) 無顆粒球症	C
		3) 急性白血病(急性骨髄性白血病, 急性リンパ性白血病)	
		① 急性骨髄性白血病 <AML>	B
		② 急性リンパ性白血病 <ALL>	B
		4) 慢性白血病(慢性骨髄性白血病, 慢性リンパ性白血病)	B
		① 慢性骨髄性白血病 <CML>	B
		② 慢性リンパ性白血病 <CLL>	C
		5) 骨髄異形成症候群 <MDS>	B
		6) 骨髄増殖性疾患	
	① 真性赤血球増加症	C	
	② 本態性血小板血症	C	
	③ 原発性骨髄線維症	C	
	7) 悪性リンパ腫(Hodgkinリンパ腫, 非Hodgkinリンパ腫)	A	
	8) 成人T細胞白血病/リンパ腫<ATL>	C	
	9) 伝染性単核球症	B	
	10) 血球貧食症候群	C	
	血漿蛋白異常症	1) 多発性骨髄腫, MGUS<monoclonal gammopathy of undetermined significance 意義不明の単クローン性ガンマグロブリン血症>, 原発性マクログロブリン血症	B
3	出血・血栓性疾患	1) 特発性血小板減少性紫斑病 <ITP>	B
		2) 血小板機能異常症	C
		3) 血友病	C
		4) 播種性血管内凝固 <DIC>	A
		5) 血栓性血小板減少性紫斑病 <TTP>、溶血性尿毒症症候群 <HUS>→腎臓の項も参照	B
		6) 血栓性疾患(先天性:プロテインC欠損症, プロテインS欠損症, アンチトロンビンⅢ欠損症など 後天性:抗リン脂質抗体症候群, 深部静脈血栓症など)	B
		7) ヘパリン起因性血小板減少症 <HIT>	C

	神経		到達レベル
1	TIA・脳梗塞	1) 脳梗塞(アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞)	A
		2) 一過性脳虚血発作<TIA>	A
	脳の血管障害・その他	1) 脳出血	A
		2) くも膜下出血	B
		3) 慢性硬膜下血腫	B
		4) 脳動脈解離	B
	5) 静脈洞血栓症	B	
	6) 高血圧性脳症	B	
2	感染性・炎症性疾患	1) 髄膜炎・脳炎・脳膿瘍	A
		2) プリオン病	C
		3) 帯状疱疹	A
		4) 感染性心内膜炎	B
		5) 神経サルコイドーシス・神経Behçet病	B
		6) 肥厚性硬膜炎	C
		7) AIDSおよび免疫不全関連の神経障害およびHAM	C
		8) 破傷風	C
3	中枢性脱髄疾患	1) 多発性硬化症・視神経脊髄炎	A
		2) 急性散在性脳脊髄炎	C
	神経免疫性末梢疾患	1) Guillain-Barré症候群	A
		2) 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー<CIDP>	A
	筋免疫性疾患	1) 多発筋炎・皮膚筋炎	B
		2) 重症筋無力症・Lambert-Eaton 症候群	A
4	末梢神経疾患	1) 糖尿病性ニューロパチー、ビタミン欠乏性/中毒性ニューロパチー	A
		2) Charcot-Marie-Tooth病	C
		3) Crow-深瀬症候群(形質細胞異常に伴うニューロパチー/POEMS症候群)	C
		4) 単ニューロパチー(Bell麻痺・動眼神経麻痺を含む)	A
		5) 圧迫性ニューロパチー(手根管症候群・腓骨神経麻痺・橈骨神経麻痺を含む)	A
		6) 神経痛(三叉神経痛, 大後頭神経痛を含む)	A
	筋疾患	1) 内分泌・代謝性ミオパチー(低カリウム性ミオパチーを含む)	B
		2) 周期性四肢麻痺	C
		3) ミトコンドリア脳筋症	C
		4) 進行性筋ジストロフィー	C
	5) 筋強直性ジストロフィー	C	
5	変性疾患	1) Parkinson病	A
		2) Parkinson症候群	B
		3) 筋萎縮性側索硬化症	A
		4) 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症	A
		5) Huntington病	C
6	認知症疾患	1) Alzheimer病	A
		2) Lewy小体型認知症	A
		3) 前頭側頭葉変性症	C
		4) 血管性認知症	A
		5) 正常圧水頭症	B

		神経	到達レベル
7	機能性疾患	1) 良性発作性頭位性眩暈症・Ménière病	A
		2) てんかん(特発性・症候性)	A
		3) 片頭痛・緊張型頭痛・群発頭痛	A
		4) 半側顔面攣縮・Meige症候群、斜頸	B
		5) 本態性／老人性振戦	A
8	経自律神経疾患	1) 起立性低血圧	A
		2) その他の自律神経疾患(純粋自律神経機能不全・Raynaud病を含む)	C
	脊椎・脊髄疾患	1) 脊椎病変による神経根・脊髄症(頸部脊椎症・後縦靱帯骨化症・椎間板ヘルニアを含む)	A
		2) 脊髄空洞症	B
		3) 脳脊髄液減少症	B
	腫瘍性疾患	1) 脳腫瘍(原発性・転移性)	A
		2) 脊髄腫瘍(原発性・転移性)・急性圧迫性脊髄症	B
3) 髄膜癌腫症		B	
4) 傍腫瘍症候群(癌性ニューロパチー・癌性小脳変性症を含む)		C	
9	代謝性疾患	1) Wernicke脳症・Korsacoff症候群、アルコール性神経障害	A
		2) 副腎白質ジストロフィー	C
		3) 橋中心髄鞘崩壊	C
	neurological・その他	1) 腎／肝／内分泌疾患等に伴う神経障害	A
		2) 膠原病に伴う神経障害	B
		3) 血液疾患に伴う神経障害	B
		4) 先天異常	C
		5) 身体表現性障害	C

	アレルギー		到達レベル
1	喘息・肺疾患	1) 気管支喘息(NSAIDs過敏喘息を含む)	A
		2) アレルギー性気管支肺真菌症	C
		3) 過敏性肺炎	B
		4) 好酸球性肺炎(急性および慢性)	B
		5) 薬剤誘発性肺障害	A
2	全身性疾患・その他	1) アナフィラキシー	A
		2) 食物アレルギー (食物依存性運動誘発性アナフィラキシー, 口腔アレルギー症候群を含む)	B
		3) 薬物アレルギー(Stevens-Johnson症候群、薬剤性過敏症症候群を含む)	B
		4) 好酸球増多症候群(好酸球性血管性浮腫を含む)	B
		5) 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症<Churg-Strauss症候群>	C
		6) 好酸球性胃腸炎・食道炎	C

		膠原病及び類縁疾患	到達レベル
1	関節症状を主とする膠原病・類縁疾患	1) 関節リウマチ	A
		2) 悪性関節リウマチ, Felty 症候群	C
		3) リウマチ熱	C
		4) 成人 Still 病	B
		5) リウマチ性多発筋痛症	B
		6) 変形性関節症	B
		7) 感染性関節炎(細菌性・ウイルス性など)	C
		8) 結晶性関節炎(痛風・偽痛風)	A
		9) 強直性脊椎炎	C
		10) 反応性関節炎	C
		11) 乾癬性関節炎, 掌蹠膿疱症性関節炎	C
2	全身症状・多臓器症状を主とする膠原病・類縁疾患	1) 全身性エリテマトーデス<SLE>	A
		2) 皮膚筋炎, 多発(性)筋炎	B
		3) 強皮症, CREST症候群	B
		4) オーバーラップ症候群, 混合性結合組織病<MCTD>	B
		5) Sjögren 症候群	B
		6) 抗リン脂質抗体症候群<APS>	C
		7) 血管炎症候群	
		①高安動脈炎<大動脈炎症候群>	B
		②巨細胞性動脈炎<側頭動脈炎>	C
		③結節性多発動脈炎	C
		④顕微鏡的多発血管炎	C
		⑤多発血管炎性肉芽腫症<Wegener肉芽腫症>	C
		⑥好酸球性多発血管炎性肉芽腫症<Churg-Strauss症候群>	C
		⑦クリオグロブリン血管炎	C
		⑧IgA血管炎<Schönlein-Henoch 紫斑病, アナフィラクトイド紫斑病>	C
		⑨Behçet 病	B
		⑩皮膚白血球破碎性血管炎	C
8) アミロイドーシス	C		
9) IgG4関連疾患	C		
10) 線維筋痛症	C		
11) 再発性多発軟骨炎	C		
12) サルコイドーシス	C		

	感染症		到達レベル
1	ウイルス感染症	1) インフルエンザ	A
		2) 麻疹	B
		3) 風疹	B
		4) 流行性耳下腺炎	B
		5) 水痘	B
		6) 帯状疱疹	A
		7) ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症	B
		8) サイトメガロウイルス感染症	B
		9) 伝染性単核球症(EBウイルス感染症)	B
		10) ノロウイルス感染症	A
2	リケッチア感染症	1) つつが虫病	C
		2) 日本紅斑熱	C
		3) 発疹チフス	C
		4) その他のリケッチア感染症	C
		5) コクシエラ感染症(Q熱)	C
	クラミジア・イソプラズマ・マイコプラズマ感染症	1) クラミジア・トラコマティス感染症(性感染症)	A
		2) クラミドフィラ・ニューモニエ感染症	A
		3) クラミドフィラ・シッタシ感染症	B
		4) マイコプラズマ感染症	A
	原虫・スピロヘータ感染症など	1) マラリア	C
		2) トキソプラズマ症	C
		3) アメーバ赤痢	C
		4) クリプトスポリジウム	C
		5) 梅毒	B
		6) ライム病(ボレリア感染症)	C
		7) レプトスピラ症(ワイル病)	C
		8) 寄生虫疾患	B
		9) プリオン病	C
	3	細菌感染症	1) ブドウ球菌(黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌など)
2) 連鎖球菌(肺炎球菌、溶血性連鎖球菌など)感染症			A
3) グラム陰性球菌(モラクセラ、淋菌、髄膜炎菌)感染症			A
4) グラム陰性腸内細菌群(大腸菌、肺炎桿菌、セラチアなど)感染症			A
5) インフルエンザ菌感染症			A
6) レジオネラ属菌感染症			B
7) ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌群(緑膿菌、アシネトバクターなど)感染症			A
8) 嫌気性菌感染症			A
9) 抗酸菌感染症(結核、非結核性抗酸菌症)			A

	感染症		到達レベル
4	真菌感染症	1) カンジダ感染症	A
		2) アスペルギルス感染症	A
		3) クリプトコックス感染症	B
		4) ニューモシスチス感染症	B
		5) 輸入真菌症	C

	救急	到達レベル	
1	心停止	A	
	ショック	1) 心原性ショック	A
		2) 閉塞性ショック	B
		3) 敗血症性ショック	A
		4) アナフィラキシーショック	B
2	神経救急疾患	1) 急性期脳梗塞	A
		2) 脳出血	A
		3) くも膜下出血	A
		4) TIA	A
		5) てんかん発作	A
		6) 髄膜炎	B
	急性 全呼吸 不	1) ARDS	B
		2) 気管支喘息発作	A
		3) 肺気腫(慢性呼吸不全の急性増悪)	A
		4) 市中肺炎	A
	急性心不全(慢性心不全の急性増悪を含む)		A
	症候性 急性冠 群	1) ST上昇型急性心筋梗塞	A
		2) 非ST上昇型急性心筋梗塞	A
		3) 不安定狭心症	A
	その他の 心大血管 疾患	1) 急性大動脈解離(Stanford A型)	B
		2) 急性大動脈解離(Stanford B型)	B
		3) 大動脈瘤	B
4) 肺血栓塞栓症		B	
5) 頻脈性緊急症		A	
6) 徐脈性緊急症		A	
7) 血管迷走神経性失神(神経調整性失神)		A	
3	消化器系 救急疾患	1) 消化管出血	
		① 食道静脈瘤破裂	B
		② 胃・十二指腸潰瘍	A
		③ 虚血性大腸炎	A
		2) 急性腹症	
		① 急性虫垂炎	A
		② 上腸間膜動脈塞栓症	B
		③ 急性化膿性胆管炎	B
		④ 絞扼性イレウス	B
		⑤ 腸管穿孔性腹膜炎	B
		3) その他の消化器疾患	
		① 感染性腸炎	A
		② イレウス(麻痺性、術後性)	A
		③ 急性膵炎	B
		4) その他	
	① 胆石・胆のう炎	A	
	② 大腸憩室炎	A	
③ 肝性脳症	A		
産科・ 婦人科 系救急 疾患	1) 子宮外妊娠破裂	B	
	2) 骨盤内腹膜炎	B	

		救急	到達レベル
3	腎・泌尿器系救急疾患	1) 腎不全	
		① 腎前性腎不全	A
		② 腎性腎不全	A
		③ 腎後性腎不全	B
		2) 感染症	
		① 急性腎盂腎炎	A
		② 急性膀胱炎	A
		③ 急性前立腺炎	B
		3) その他	
	① 尿管結石	A	
	② 尿閉	A	
	③ 腎梗塞	C	
	内分泌系救急疾患	1) 低血糖症	A
		2) 高血糖緊急症	A
		3) 甲状腺クリーゼ	B
		4) 粘液水腫性昏睡	B
		5) 副腎クリーゼ	C
		6) アルコール性ケトアシドーシス	B
	電解質・酸塩基平衡異常	1) 電解質異常	
① 高K血症		A	
② 低K血症		A	
③ 低Na血症		A	
④ 高Ca血症		A	
⑤ 低Ca血症		B	
⑥ 低Mg血症		B	
2) 酸塩基平衡異常			
① 代謝性アシドーシス		A	
② 代謝性アルカローシス		A	
③ 呼吸性アシドーシス	A		
④ 呼吸性アルカローシス	A		
4	中毒・環境障害	1) 環境障害	
		① 熱中症	A
		② 偶発性低体温症	A
		2) 中毒	
		① 一酸化炭素中毒	C
		② 急性医薬品中毒	A
		③ 農薬中毒	C
		④ ワルファリンの中和	B
		3) 異物誤飲	B
4) 溺水	B		